二〇一四年七月一八日

炎天へ昇る大円観覧車　菜々

阿羅漢の膝に小銭や蝉時雨　よし女

二〇一四年七月一七日

化粧塩尾にたっぷりと鮎を焼く　菜々

向日葵の園を迷路に子等遊ぶ　あさこ

夏神輿信号止めて笛太鼓　みちほ

滴れる間歩の磨崖に観世音　よし子

鄙の庭草ひとつなし日照草　よう子

二〇一四年七月一六日

片陰に下校子待つは見守り隊　満天

蛇と眼の合ひし恐怖に金縛り　よし女

あぜ道の左右より匂ふ青田風　みちほ

二〇一四年七月一五日

裏山にこもり鳴く鳩梅雨深し　雅流

苦瓜のジュース蜂蜜ふんだんに　よう子

香水の匂ひの残るエレベーター　よし子

カレー臭漂ひくるはキャンプ村　宏虎

二〇一四年七月一四日

カラフルな車両がよぎる植田かな　さつき

おしぼりの熱きが嬉し夏料理　よし女

紫蘇ジュースふるまふ島の古刹かな　なつき

空蝉の背な一太刀に開きけり　ぽんこ

千体の水子地蔵に初蝶来　三刀

湖岸の灯またたきそめし端居かな　よし子

二〇一四年七月一三日

休日の逸る気持ちに明易き　さつき

ぶつ切りの蛸入カレー島料理　なつき

万緑を砦としたる古墳かな　宏虎

堂涼しカーテンコール鳴りやまず　かず

二〇一四年七月一二日

厄除けの急磴綴る七変化　三刀

緑陰の古し一碑は逓司跡　菜々

朝市の賑はひ日傘犇めきて　かず

太鼓橋七夕竹の揺れやまず　さつき

目に涼し羊歯群落を渡る風　ひかり

毎日句会みのる選・二〇一四年七月二〇日